

支倉常長フェロー報告書
提出日 2011年6月30日

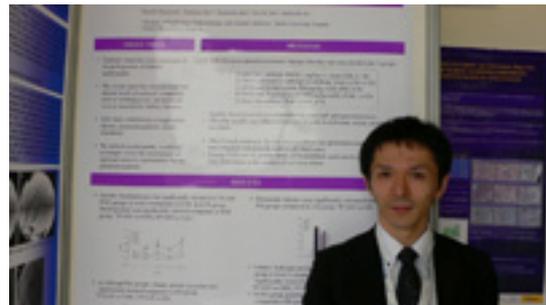


申請者	氏名	中道 崇
	所属・職	腎高血圧内分泌科・医員
出張期間	2011年6月22日～6月27日	
渡航先	チェコ共和国・プラハ	
渡航目的	学会参加、共同研究のための留学・()	
発表演題名あるいは共同研究課題名	PYRIDOXAMINE AMELIORATES GLOMERULOSCLEROSIS IN EXPERIMENTAL CHRONIC GLOMERULONEPHRITIS THROUGH REDUCTION OF OXIDATIVE STRESS	

得られた成果など

本年6月23日～26日にチェコ共和国・プラハで開催された欧州腎臓透析移植学会(XLVIII ERA-EDTA Congress)に参加し、上記の演題でポスター発表を行った。本演題は、ビタミンB6製剤であるPyridoxamineがラット慢性糸球体腎炎の進行を抑制することを証明したはじめての研究であり、近日中に論文投稿を予定している。

糖尿病、特に今回私が焦点を当てたAdvanced glycation endproductsの領域で高名な研究者である米国・マウントサイナイ大学のStriker博士より、現時点での問題点や今後取り組むべき課題についての提案を頂戴する機会に恵まれた。



また臨床腎臓学に関するいくつかの最新の研究結果が発表された。一例としてANCA関連血管炎に対するRituximabの治療効果や、糖尿病性腎症に対してBardoxolone methylを投与した臨床試験のポジティブな結果など、新しく画期的な知見を得ることができた。